

明確化し、そしてその中で各医療人が「つなぎ人」として地域をどのようにマネジメントすべきか、一筋の光明を照らして頂いたと感じています。

最後に、本学術集会開催にあたりご支援とご尽力をいただきました全ての皆様に篤く御礼申し上げます。

第16回大分支部学術集会

学術集会会長：国立病院機構大分医療センター

副院長 穴井秀明



会場風景

2016年2月27日(土)に第16回大分県支部学術集会を100年に1度の大再開発が完了した大分駅近傍の明日香美容専門学校

の10階大ホールと11階ホールで開催しました。メインテーマは「みんなで支えよう地域の医療・安全～愛の心・手～」としました。これには3つの意味が含まれています。一つ目は「地域医療」、二つ目は「医療安全」、そして三つ目は当院の理念である「愛の心・手」です。

地域医療に関してはシンポジウム「地域包括ケア時代に向けて～私たちが今から取り組むべきアクションとは～」というテーマで4名のシンポジストに発表と活発な討論をしていただきました。このシンポジウムに興味をもたれた東京都市大学都市生活学部准教授西山敏樹先生がわざわざ東京から来られ、午前中の一般演題からシンポジウムまで聴講されフロアから討論に参加していただきました。

医療安全に関しては、ランチョンセミナーで東京慈恵会医科大学教授の海渡 健先生に「より良いチームワークで医療の安全性と成果を高めましょう チームステップス(TeamSTEPS)を活用したノンテクニカルスキル改善策」と題して講演いただきました。また特別講演で佐賀県血液センター所長の入田和男先生に「九大病院医療事故調査の教訓」という題で講演していただきました。

一般演題は口演発表21題、ポスター発表10題、クリティカルパス展示2題の合計33題でした。4つの口演セッションと2つのポスターセッションそれぞれで各座長にベスト口演賞、ベストポスター賞を選んでいただきました。参加者は187名でした。関係者の皆様のおかげで、実り多い学術集会であったと自負しています。

本学術集会開催にあたり、準備、運営にご支援、ご協力をいただきました全ての皆様方に心から感謝とお礼を申し上げます。

第15回神奈川支部学術集会

学術集会会長：恩賜財団済生会横浜市東部病院

院長 三角隆彦



会場風景

2016年3月5日(土)、関内の横浜市開港記念会館にて日本医療マネジメント学会第15回神奈川支部学

術集会が開催され、神奈川県内の医療従事者を中心に350名のご参加をいただきました。

東日本大震災から5年が経過した今、「日常と非日常における医療安全のマネジメント」というテーマのもと、日本航空株の惣野正久様による安全管理の特別講演、震災時の南三陸で診療にあたり、米TIME誌から「世界で最も影響力のある100人」に選ばれた東北大学病院の菅野 武先生による市民公開講座、従来の役割にとらわれない“一歩先”の活動をされている看護師、薬剤師、MSWによるパネルディスカッション、神奈川県済生会の正木支部長、済生会横浜市東部病院救急科の山崎部長によるランチョンセミナー、一般演題82題(口演58題、ポスターセッション24題)と、大変充実した内容でお送りしました。

ご参加、ご協力いただいた多くの関係者の皆様、心より御礼を申し上げます。

第15回香川支部学術集会

学術集会会長：高松赤十字病院第一呼吸器科部長

山本晃義

2016年3月5日(土)に第15回香川支部学術集会を香川県社会福祉総合センターにて開催いたしました。「ワンランク上のチーム医療を目指して」のテーマのもと、チーム医療の底上げを図るべく演題を募集したところ、医療安全、感染対策、クリティカルパスなど本学術集会にふさわしい22演題が集まりました。

当日は天候に恵まれ、午後からの開催でしたが112名の参加がありました。積極的に質疑応答が交わされ、参加者のチーム医療に対する熱意が感じられました。特別講演は、徳島大学総合診療医学分野の谷 憲治教授にお願ひし、「チームで守る地域医療～総合医育成への取り組み～」というタイトルでお話ししていただきました。医師が激減した徳島県南部の公立病院を舞台に、地元住民が病院存続のためチームを結成して若手の総合医育成に協力するという内容でした。病院再建